

# 2040年 あなたが社長になったとき



⑧



「自分で考え実践する経験を積み」と話す坂根代表取締役社長  
■ 県立大佐世保校(山下哲嗣撮影)

大阪鋼管代表取締役社長

坂根 毅氏(40)

今年、県立大からインターンシップとして2人の学生を受け入れた。かなり「変な方法」だったと思う。

2人はベトナムに放り込んだ。指令は二つ。現地で友達を毎日50人つくって「SNS」でつなぐこと。それが難しければ、日系企業以外で毎日7社、現地の企業を訪問すること。友達を増やすことは、政府系大企業のキーパーソンの家族に出会える可能性がある

## 自分で考え経験積もう

からだ。そこで大きな商売ができるかもしれない。

つまらないインターンシップはやりたくなかった。大学からは事故などを懸念する声もあった。動かないと事故はないだろうが、動かなければ成長もしない。

昨年、39歳で社長になった。

日本初の「冷間引抜鋼管メーカー」と言われ、100年弱の歴史がある会社だ。

大学3年のとき、ある自動車メーカーのインターンシップに行った。本を読んだだけで、会社に何の利益ももたらしていないと感じた。つまらなかつた。今回県立大の学生

には、こんなことをしてはいけない、と思った。

気持ちを与えられるインターンシップにしたかった。今思うと、スパルタだった。日本企業への訪問では偏った意見しか聞けず、価値を生み出さない。現地企業を訪れ、その国の役に立つことを考えるよう指示した。時には厳しいことも言った。休日には必死に遊べと伝えた。「よく学び、よく遊べ」が大切だ。

就職活動のとき、スズキの小論文試験で「2020年、あなたが社長に就任することを想定してください」という出題があった。皆さんも20年後、企業や社会情勢がどうなっているかを考えて就職し、主体的に活躍してほしいと思う。

今しかできないことに挑戦してほしい。もつと面白いことができるはず。ビジネスプランコンテストに参加し「稼げる力がある」と自信を付けるのもいい。就活はそこから始めたらいい。

年功序列は素晴らしい仕組みだが、面白くない。成長が止まり、成長しようと努力しない先輩社員も給与が増え続ける。そんな企業で働くより、ベンチャーをつくることを勧める。センサー・通信・演算機器の小型化・低価格化による「第4次産業革命」という大きなチャンスが来ている。

2040年と言わず、来年、この中から企業を立ち上げて社長になっている人が1割くらいは面白い。出身校による学歴社会は終わらぬ。まずは卒業まで自分で考え実践する経験を積もう。

次回(後藤洋平)は11日に掲載します